

やまめ

題字：尾方 芳郎氏

9月議会定例会
総務常任委員会
経済常任委員会
一般質問

表紙：西谷地区の彼岸花

9月定例会 こんな事が決まりました

手腕、試される3期目挑戦

マイナンバー制度導入、村民への浸透率は？

平成27年第3回定例会が9月15日より17日まで3日間の会期で開催。上程された案件は、「報告2件」「工事請負契約の締結2件」「条例の一部改正2件」「一般会計補正予算1件」「特別会計補正予算5件」の計12件を審議の結果、原案の通り可決した。また「平成26年度五木村歳入歳出決算認定案件10件」は特別委員会を設けて審査する事とした。

会期2日目の16日には、4人の議員が村政と村長3期目への意気込みを質問した。

《報告》

○平成26年度決算に係わる財政健全化判断比率の報告

○平成26年度公営企業資金不足比率の報告

《工事請負契約の締結》

①工事名 林道八重線開設工事

請負金額 78,408,000円

契約の相手方 大乘技建株式会社

②工事名 村道内谷線道路改築工事

請負金額 60,696,000円

契約の相手方 大乘技建株式会社

《条例の一部改正》

○五木村手数料徴収条例の一部改正
行政手続における特定の個人を識別する番号（マイナンバー）の利用等に関する法律の施行に伴い、手数料の規定を定める改正。

○五木村個人情報保護条例の一部改正

マイナンバー制度の利用等に関する法律の施行に伴い改正。

9月定例会補正予算

会計名	補正前額	補正額	予算現額
一般会計	39億6,098万2千円	4,383万2千円	40億481万4千円
国民健康保険特別会計	1億9,678万9千円	520万5千円	2億199万4千円
介護保険特別会計	2億542万円	954万円	2億1,496万円
代替地上下水道事業特別会計	1,274万7千円	121万円	1,395万7千円
後期高齢者医療特別会計	2,349万5千円	△108万3千円	2,241万2千円
情報通信事業特別会計	4,059万3千円	150万円	4,209万3千円

一般会計の主な補正

項目	歳入	
	補正額	説明
村民税（個人）	422万4千円	確定による
固定資産税	1,158万円	JNC償却資産
地方交付税	8,928万4千円	確定による
災害復旧国庫補助金	500万円	村道災害復旧
臨時財政対策債	△9,487万7千円	交付税確定による

歳 出		
項 目	補 正 額	説 明
総務（一般管理費）	1,024万2千円	マイナンバー制度導入経費
総務（企画費）	138万9千円	五木源パークフェンス修繕料等
地籍調査費	△1,990万2千円	調査及び測量委託料
老人福祉費	210万円	生きがい活動支援通所事業委託料
子育て・定住支援費	342万7千円	集落内道路等整備助成金
農業振興費	227万7千円	中山間地域等直接支払交付金（4地区）
林業振興費	230万円	急速冷凍庫購入費（猪鹿解体処理施設）
義務教育費	90万1千円	ICT活用サポート委託料
災害復旧費	1,100万円	災害復旧測量設計及び工事請負費

特別会計の主な補正（歳出）

会 計 名	補 正 額	説 明
国民健康保険特別会計	475万5千円	国県負担金等返還金
介護保険特別会計	600万円	介護給付費準備基金積立金
代替地上下水道事業特別会計	121万円	下水処理施設修繕料
後期高齢者医療特別会計	△157万6千円	被保険者負担金（保険料）
情報通信事業特別会計	150万円	ケーブル等修繕料

決算認定審査特別委員会の設置

平成26年度一般会計及び特別会計の認定審査を行うため、特別委員会を設置しました。
委員長：田山淳士 副委員長：早田吉臣 委員：全議員

臨時議会

10月22日に村長及び議会議員補欠選挙後、初めての臨時議会が招集されました。

川邊正美議員並びに和田拓也村長の就任あいさつ後、次のことが全会一致で可決しました。

川邊正美議員	議 席 1 番
常任委員会	総務常任委員
特別委員会	ダム対策特別委員
決算認定審査特別委員	決算認定審査特別委員

五木村議会議員 になつて



五木村議会議員
川邊 正美

10月6日に告示されました、五木村議会議員補欠選挙におきまして無投票ではございませんでしたが、皆様の激励を受け無事に当選させていただきました。

ました。12日には選挙管理委員会より当選証書を受け取り、身の引き締まる思いと責任の重大さを痛感しております。微力ながら議員活動や地域活動につきましたは、これまでの経験を活かしながら、五木村の発展と安心・安全な村づくりに向けて、全力で取り組むたいと考えております。村民の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、今後とも宜しくお願い致します。

平成27年度一般会計補正予算（第4号）

補正前額	補 正 額	予算現額
40億481万4千円	639万5千円	40億1,120万9千円
費目（歳出）	補正額	説 明
議 会 費	160万2千円	議員就任による報酬費等
造 林 費	219万7千円	台風被害による倒木起こし委託料
災害復旧費	116万3千円	作業道三方谷線災害復旧工事

平瀬地区からの要望と意見交換会を開催

期 日 平成27年8月2日(日)

内 容

5月31日の区長会にて、地区との意見交換会の募集を行ったところ、平瀬地区から要望があった。また、地区要望書の件もあり、建設課長の同行のもと、総務常任委員会と山本議員が出席し、地元からの意見を伺い、意見交換を行った。

要望と意見交換会 (抜粋)

○下平瀬地区の高台にある集会所や住宅のための道路整備について

(要望) 集落内の道路はできないか。

(回答) 全村的に集落内の道路整備については、村で3分の2を助成しているのですが、その事業にてお願いしたい。急勾配で道路構造令(法律)もあり、国の補助事業では無理である。

(要望) 車いすでも通れるスロー

プはできないか。村内の集落で自動車が入らない集落はないのではないかと。

(回答) 現道の階段をスロープにするには急勾配でもあり、車いすを押すのにも大変ではないか。ルートを考えないといけない。村内でも車道がない集落は数カ所ある。

○下平瀬地区住宅周辺の大径木(枯木)の撤去について

(要望) 今年の2月に現地を視察したとのことであったが、どこ付近を見たのか。要望しているのは集落より、100mほど上である。

(回答) 集落全体であるが、議会が聞いている場所が違っていきやすい。住民の代表の方に案内してもらい、現地を確認したい。(建設課長)

○上下平瀬地区合同集会所施設の移転(建設)について

(要望) 村で集会所の建設ができないか。村の建設した集会所は維持管理も村がやってくれるのか。

(回答) 以前、国の経済対策の財源にて集会所建設の要望を募ったが、本地区からの要望がなかった。林業関係の補助

事業で建設した地区もあるが維持管理については地区で行っていただいている。議会としては、空き家を利用したかどうか提案する。

○上下平瀬地区防犯灯設置と維持費軽減について

(要望) 防犯灯を村でLED化する考えはないか。

(回答) 防犯灯は地区ごとの管理となっている。村でのLED化は、役場庁舎などの蛍光灯をLEDにする、といったことである。地区の防犯灯では、助成金で、九折瀬地区などが改修した実績がある。

まとめ

全体的には集会所までの道路を造って欲しいと意見が多かった。今回は建設課長の同行もあり、集落道整備補助金の説明をされ、地元代表と立会いのもとルート等を検討し、工事費の試算を行うこととなった。

また、大径木の伐採についても現地を立ち会うとのことである。

● 議会の動き (9月～11月)

- | | |
|---|--|
| <p>9 4日 9月定例郡議長会議(議長)</p> <p>8日 9月定例全員協議会
議会運営委員会</p> <p>9日 人吉下球磨消防組合例月監査(中村議員)</p> <p>12日 宮園砂防堰堤工事着工式(全議員)</p> <p>14日 五木村交通安全推進協議会(議長)</p> <p>15日 平成27年第3回五木村議会定例会(～17日)</p> <p>21日 五木村敬老式典(全議員)</p> <p>24日 例月監査(岡本監査委員)～25日</p> <p>25日 下球磨町村議会議員親善グラウンドゴルフ大会</p> <p>29日 人吉球磨広域行政組合同議会議員視察研修(田山・山本議員)</p> | <p>20日 森林・林業・林産業活性化九州大会(経済委員)</p> <p>21日 広報委員会</p> <p>22日 第5回五木村議会臨時会</p> <p>26日 例月監査(岡本監査委員)～27日
人吉球磨広域行政組合同議会決算特別委員会(田山・山本議員)</p> <p>27日 広報委員会
熊本県町村議会議員研修会(全議員)</p> <p>30日 球磨郡町村議会議員親善グラウンドゴルフ大会</p> |
| <p>10 2日 10月定例全員協議会</p> <p>5日 人吉球磨広域行政組合同議会決算特別委員会(田山・山本議員)</p> <p>6日 町村監査委員全国研修会(岡本監査委員)～8日
人吉球磨広域行政組合同議会新任議員施設視察研修(田山議員)</p> <p>8日 10月定例郡議長会議(議長)</p> <p>9日 人吉下球磨消防組合議会議員分署視察(中村議員)</p> <p>14日 全員協議会
広報委員会
決算認定審査特別委員会</p> <p>15日 管内主軸事業上京要望(議長)～16日</p> <p>16日 全国へき地教育研究大会熊本分科会
人吉下球磨消防組合定期監査及び例月監査(中村議員)</p> | <p>11 4日 11月定例全員協議会</p> <p>6日 人吉球磨広域行政組合同議会決算特別委員会(田山・山本議員)</p> <p>9日 決算認定審査特別委員会</p> <p>11日 第59回町村議長全国大会(議長)～12日
人吉下球磨消防組合例月監査(中村議員)</p> <p>13日 11月定例郡議長会議(議長)</p> <p>16日 五木村議会議員行政視察研修(～18日)</p> <p>19日 例月監査(岡本監査委員)～20日</p> <p>20日 熊本県町村議会広報クリニック(広報委員)</p> <p>21日 人吉球磨広域行政組合同議会定例会(田山・山本議員)</p> <p>25日 多良木町合併60周年記念式典(議長)</p> <p>27日 監査委員定期監査(岡本監査委員)～26日
人吉球磨広域行政組合同議会定例会(田山・山本議員)</p> <p>30日 熊本県後期高齢者医療広域連合議会定例会(議長)
人吉下球磨消防組合議会定例会(中村議員)</p> |

農林課職員との意見交換会を開催

期 日

平成27年7月15日(水)及び7月31日(金)

内 容

人口減少が深刻になる中、議会としても雇用の場の確保と若者がどうしたら定住できるか、日頃より協議・検討を行っている。

しかし、抜本的な打開策が見い出せないことから、今回、農林業関係の補助金のあり方や効果、チェック体制について、委員で勉強会を行い、後日、農林課職員と今後の農林業振興についての意見交換会を行った。

委員間での意見等(7/15)

- ・補助金の交付を受けた生産者からは生産実績を提出してもらうべきではないか。
- ・補助金交付後の追跡調査が必要である。
- ・森林組合に支援している補助金等は林業従事者の給料や社会保険料にどう反映されているのか。
- ・新しい農業を目指すことも必要ではないか。

・村の主力特産品や生産量が見えてこない。

農林課職員との意見交換内容(7/31)

(委員) 椎茸生産量について、個人の生産目標や全体計画等はあるのか。

(農林課) 特に設定していない。個人の種ゴマ個数は把握できているが、今は生産者を増やすことに重点を置いている。

(委員) 五木村の産業振興は農林課にかかっていると思うが、目標数値を立てて取り組まなければならぬのではないかと思うが。

(農林課) 議員の指摘は分かるが、今の五木村の少子高齢化や産業別人口など、難しい経済構造になっているので、なかなか目標値を立てるのが困難な状況である。

(委員) 農林業に関する地域座談会等は開催しないのか。

(農林課) ある地域を例えると、12軒あるが集まらない。皆さん山を持っておられるが、椎茸を作る方も2、3軒しかない。興味がな

となかなか集まってもうえない。昔のような地域の共同精神みたいなものも薄れてきている。

(委員) 振興基金が終了することを踏まえ、補助金のあり方について検証をし見直すことも必要だと思おうが。

(農林課) 振興計画に基づき、椎茸乾燥機のような高額のものを見直していく予定で生産者にも伝えていく。

(委員) 現在の椎茸生産者の後継者や年齢層はどのような状況か。

(農林課) 生産組合では40代1人、50代3、4人。あとは60代以上の方である。

(農林課) 15年ほど前に「年金+ α 」という理論があったが現在もその路線であると思う。

(委員) 現状はそうであるが、村の目標は若者の定住であるので、ある程度の収益がないと生活ができないので、そこが難しい問題である。

(委員) 収益を上げるため、大手のスーパーに出荷するのも方法であるが、安定した出荷量が必要である。本村は昔からそれができていないのが現状である。

加工所を作って欲しいと言われるが、第一に生産量である。まず、それを解決して要望していただきたい。例えば、大根なら大根だけを各農家が栽培し、それを漬物に加工するといった方策をとれば、運営的に可能かも知れないが、そこまで皆さんが決心できるかが分からない。

(委員) そのような形をとれば、その効果は上がると思う。今は小さな畑で100種類作っても所得は上がり長続きはしない。東陽町のシヨウガのようにそれに力を注げば収益は上がると思う。

総論

農林課が農林業の振興を図る上で問題点は、少子高齢化による後継者不足が大きな要因となっているようである。

しかしながら、村の目標は若者の定住なので何らかの対策を講じていかなければならない。

いろんな補助事業をしているが追跡調査をしながら、より良い効果が得られるようお願いし、今後も議会と執行部が知恵を出し合い、いろいろな問題解決に努力することを申し合わせた。



山本議員

和田村長3期目の出馬は

和田村長 誠心誠意目標に向かって頑張りたい

山本議員 和田村長3期目の出馬について伺いたい。

和田村長 集中的に実施する期間を平成30年という目標をもっており、基本計画、基本構想も作成し、今までの継続性も必要である。

今、本村は大きな課題を抱えており、生活再建に結び付け、今回は是非出馬をさせていただき有権者の皆さん方の信任を得るように誠心誠意目標に向かって頑張りたいと考えている。

くらしと経済を支えるインフラについて

質問 道路や港湾、堤防といったインフラの蓄積はアクセス性の向上や物流コストの低減、水害の防止など、経済活動の効率性を高め、投資リスクを低減し、その結果生産力を拡大させ、工場の立地・雇用の増加など、くらしや地域経済に長期に渡って効果をもたらしている。本村の経済対策の考えを伺いたい。

村長 地域経済を支えるためには安心・安全が一番であり、今、情報通信に支えられた情報化社会で、インターネット環境等、十分整っていないければ、企業進出が実現できない。

地域全体のストック効果を発揮できるのも、フォロー効果、波及効果、雇用、住む人が経済活動が活性化していくためには本村は重要なインフラとして道路が挙げられると思っている。



国外向けに木材が集積された港



輸出向け出荷材



林業従事者の就業環境の改善が必要では

和田村長 機器具等の助成をしているが 就業改善も必要である



藤本議員

藤本議員 特に重要である若者の定住と雇用対策の考えは。

和田村長 40人ほどI・Uターン者はあるが雇用に係る対策や資格取得の助成金等を用意し東京と大阪で県と共同で移住相談会を行っている。

質問 生産年齢人口がどれくらいあれば村の再建が達成されると考えているか。

村長 働く人が現在の2割増が必要と思っている。

質問 林業従事者は高齢化し、減少傾向にある担い手をどう確保する考えか。

村長 林業者住宅を増やす必要があり、機器具等の助成策もとっている。

質問 森林整備等は補助金内での事業で働く方に跳ね返っており就業環境が厳しい。どう考えているのか。

村長 木材価格の問題をどうするか。中間集積場、産直住宅で高付加価値を付けた材を出すことを考えている。

質問 経済林から森林の果たす公益的機能や国土保全の面で、国策で山元の森林を守るよう、国に訴えが必要と思うが。

村長 森林税も一定の結論を得ている。森林税の創設が、安定した雇用になるので創設に向けて頑張りたい。

質問 夏場の下払いは厳しい作業であり、今後の担い手対策は就業環境改善が重要だと思うが。

村長 育林は重要で定期的な作業でもあり、下払い機等の助成しているが、その外の事も考える必要がある。

質問 林業従事者と意見交換の場を作り、いろんな意見を聞き就業改善に取り組む考えは。

村長 農林課と一緒にどんな方法がいいのか検討し取り組みたい。

質問 本村には企業の参入も厳しい状況にあり一時間程度で通勤圏にある八代市に雇用の場を求め、国、県との三者協議の場で提案をする考えは。

村長 安定的な雇用の場が見込める八代市港湾の利用等で企業が増える地域であり、通勤も一時間程度という事で五木に住む環境等を県にお願

質問 五木に住むメリットが多く、長期的な計画が必要で、特に学校教育の面も考え卒業生が残る施策が重要であると思うが。

村長 定住していただくには、思い切った施策が必要であるが、今お住まいの方とのバランスをどうするか

が問題でもある。

質問 川辺川ダム事業で村外に移転された方々は村の存続を大変に心配されている。

また、国、県に八代方面に若者の雇用の場を求める要望をすることを検討されており、このような方々の協力をいただき、一人でも多くの若者が本村に定住するよう取り組みが必要ではないか。

村長 そのような方々のお力とお知恵をお借りすることや県にも働きかけをしたい。



夏場の厳しい下刈り作業



中 村 議員

瀬目トンネル工事に伴う

村民への対策は

和田村長 迂回路の安全確保と啓発を確実にを行う

瀬目トンネル改修工事について

中村議員 瀬目トンネルの地山変動により、昨春秋に2週間ほど迂回路の利用を余儀なくされ、特に村民の方々は大変不便な思いをされた。いよいよ今年の秋から長期に渡るトンネル改修工事が行われ、2年間に及ぶ迂回路の利用で、精神的・経済的な不利益が生じることは明確であり、特に高齢ドライバーにとって深刻な影響が出ると思わ

れる。どのような措置を考えておられるか。

和田村長 迂回路の利用により、約700メートルの延長、時間にして10分ほど、大変なご迷惑とご不便をおかけする。しかし、災害に起因する今回のような件での金銭的な補てんは、ほとんど例がない。万全の措置を具に要望するとともに、通行者に対する啓蒙啓発も十分に行いたい。

また、風評被害等によって、村内のサービス業、観光面に影響が出ることも心配しており、看板の設置等、しっかりと

とした情報提供をしたい。

通勤助成金制度の利用促進について

質問 子育て定住支援事業にある「通勤助成金制度」の運用状況を伺いたい。

川辺保健福祉課長 取り組み開始の平成22年度は20名の申請。23年度は15名。24年度は6名。25年度は7名と年々数が減っている。当初は月額3千円のガソリン引換券だったが、平成26年度からは思い切って月々現金

1万円にした。それでも申請者がさほど増えない理由には、45歳という年齢制限や通勤距離が25kmに満たないなどの理由が考えられる。

質問 助成額を増やしたにもかかわらず、申請者、該当者が予想よりも少ない状況は何故か。年齢や距離のハードルによって制度が利用できない村民への対応を含め、どう考えておられるか。

村長 現在、担当課を中心に、年齢制限や距離の見直し、村内通勤の方々への配慮、子どもの学校への送り迎えなど、いくつかの試案を検討している。



瀬目トンネル (人吉側より)



防災無線の活用は

和田村長 今後、協議をしたい



早田議員

早田議員 台風15号の被害調査の方法と手順はどのように行われたのか。

黒木総務課長 翌日8時半から、1班3人程度の8班体制で村内を分担し倒木、道路状況、決壊、崩土など生活道路、電柱倒壊、ケーブルテレビの断線、家屋の被害、人的被害を調査し、午後4時に報告会を行った。

質問 人的被害を第一に調査することが必要で、停電により電話が不通で調査が不可能な所などはなかったのか。

総務課長 停電により固定電話、IP電話が不通になり、携帯電話が通じる所は連絡が確認できたが、出来なかった所には行けるところまで行き情報収集を行った。

質問 国土交通省では、「防

災行動計画」を作り、台風が来る一時間前にどうするなどのマニュアルなどがあるが、村にはあるのか。

和田村長 今、五木村には「防災行動計画」はない。「防災計画書」に基づき対応している。タイムラインを動かすなら自衛隊とか警察、気象庁なども必要となり、今後協議をしたい。

質問 今回、停電により固定電話、IP電話、その後、携帯電話も通じなくなった。この様な時に従来の防災無線を活用したらどうか。

村長 大変迷惑をかけた。防災無線の活用も必要と思う。しかし、アナログ放送が使えなくなり、デジタルに移行しなければならなくなるので今後協議をしたい。

子育て定住支援対策事業について

質問 これまでの子育て定住支援対策事業の経緯と成果はどのように考えられているのか。

村長 平成22年からこの支援事業を始めた。成果としては、「結婚祝い金」や「Uターン、Iターン助成金」の支給などで成果はあると思うが、その判定は各々の視点で変わると思う。

質問 村長が目標とされている3世代家族が増えたのか増えなかったのか、どのように考えられているのか。

村長 3世代家族が増えたか

という指標でみるなら「その効果はあった」というふうには、言えないと判断している。

質問 定住促進に関して全国的にどの市町村も取り組んでいるので、村内の事業者などが出張販売などに行くとときに、その雇用と定住策があることをセットで支援するような考えはないか。

村長 五木村の魅力の発信や定住への仕掛けがなかったものと反省をしているのでこれから努力すべき点と考えている。

その他、マイナンバー制度について質問しました。



防災無線

シリーズ たから

五木村の宝

= 白水・嶽・竹の川・入鴨・吐合・三浦地区 = Vol.17



白水の日吉神社



竹の川地区



入鴨観音堂

白水地区は、国道445号沿いの宮園から頭地向かう左手高台にある。この地区は昭和50年に集落再編成事業にて、中道、嶽、入鴨の各地区から交通等の利便性を考慮し、移転された方々が住まれている。集落には日吉神社があり、嶽地区にあった神社で現在も安寧を祈願されている。竹の川地区は、白水地区から約600m先にある、商店2軒、食堂と民宿を兼ねた店舗が1軒、JNC(旧チッソ)の発電所がある。梶原川と川辺川が合流するところで、毎年、ヤマメやアユ釣りで賑わいを見せている。

竹の川橋を渡り左折すると県道五木湯前線に入る。数百メートル進むと、また数軒の集落があり、これも竹の川地区である。建設会社や、かつてはチップ工場もあったが昭和59年に大規模な地滑りが発生し、甚大な被害(死者15人、不明者1人)を受けられた経緯もあり、地元の方は当然のことながら、当時のことを忘れられないとのことである。県道沿いには林道嶽線や村道入鴨線があり、村道入鴨線に入ると途中には鍾乳洞があるが、現在は落石等により危険なため、立ち入れない。そこから3kmほど進むと入鴨地区がある。本村指定の

文化財である入鴨観音堂や入鴨阿蘇神社がある。数少なくなった住民が手厚く守っておられる。入鴨線と県道の分岐から県道を上流へ進むと、すぐ、吐合地区がある。三浦地区とも呼ぶが、ここには商店が1軒と九州電力の梶原発電所、平成17年3月をもって廃校した三浦小学校があった。集落の対岸には断崖絶壁に大きな穴がぽっかりと口を開けた天狗岩がある。発電所近くでは夏の夜にホタルが飛び交い村内でも希少な景勝地もあるが、河川災害で数が増えつきり少なくなった。

今回は、梶原、小原、下梶原です。

編集後記

今年も異常気象により暑い日が続いていましたが、ようやく秋の風情がただよう季節となりました。

任期満了に伴う村長選挙と村議会議員補欠選挙が、10月6日に告示されましたが、村長選挙には現職の和田拓也氏以外に立候補者はなく、2期連続無投票で3期目の当選が決まりました。今後の村づくりに御期待申し上げます。

また、議会議員補欠選挙(欠員1)も新人の川邊正美氏以外に立候補者はなく無投票で初当選となりました。今後の議会活動を宜しく願います。

月日のたつのも早いもので、今年も後2ヵ月となりました。これから寒い季節となります。お体には十分注意して頂きますようお願い申し上げます。

S・O



白い彼岸花

今回の定例会は12月中旬の予定です。皆様の傍聴をお待ちしております。